

## ■競技注意事項

### 1. 競技規則について

本大会は最新の WA 競技規則、2026 年度日本陸上競技連盟競技規則、競技会における広告および展示物に関する規程、並びに本大会競技注意事項および申し合わせ事項に従って実施する。

### 2. 招集について

- (1) 第一次招集は、マラソングート内招集所にて行う。番組編成にある本人の組・レーンを確認し、ナンバーに○をつけること。その際、競技中に着用するユニフォーム・胸アスリートビブス・腰ナンバーカード・競技使用予定シューズ・商標の確認を受けて招集完了とする。確認後は競技役員の指示があるまで招集所内に待機することとする。
- (2) 5000m、10000m、10000mW に関しては、第一次招集時に腰ナンバーカード(右腰)に加え、トランスポンダー付きの腰ナンバーカード(左腰)と番号をあわせた長距離専用アスリートビブスを配付する。また、2 枚の腰ナンバーカードおよび長距離専用アスリートビブスは競技終了後、必ず競技者係に返却すること。
- (3) リレー競技の第一次招集は、出走者 4 名全員が受けること。その際に、アスリートビブス・商標・同一ユニフォームであるかを確認する。
- (4) **TR24.13 に関わらず、リレーオーダー用紙は、第一次招集開始の 10 分前までに TIC へ提出すること。リレーオーダー用紙を提出しなかった場合、そのチームは欠場とみなす。(「3. 欠場について」参照)**
- (5) リレーオーダー用紙の提出後に、ケガまたは病気等によりメンバー変更の必要が生じた際は、主催者が任命した医務員の署名済の書類提出がない限り、変更は認められない。この場合、競技者の変更のみが認められ、走順の変更は認められない。
- (6) **TR24.10 [国際] に従い、リレー・チームのメンバーは、どのラウンドにおいてもリレー競技または他の種目に申し込んでいる競技者であれば、誰でも出場することができる。また、最初のラウンドに出場した競技者はその後のラウンドを通して、最大 2 名まで他の競技者と交代することができる。**
- (7) 同一時間に 2 種目以上出場する競技者、および競技中のため他の種目の招集を受けられない競技者は、招集を受けることのできない種目の第一次招集完了時刻までに重複出場届をマラソングート内に設ける TIC に提出すること。これをもって重複出場届の手続きは完了する。なお、原則、第二次招集には競技者本人が参加すること。
- (8) 種目別、組別の招集時刻は、HP に掲載されている競技日程の記載の通りとする。
- (9) リレーオーダー用紙・重複出場届・当日欠場届・混成競技途中棄権届はマラソングート内に設ける TIC にて配布する。

### 3. 欠場・選手変更について

- (1) 5 月 12 日(月) 正午までに事前欠場届を関西学連(icaak.rec@gmail.com) までメールにて提出すること。
- (2) 当日欠場は原則として認めない。やむを得ない場合に限り、当該種目の競技当日に、当日欠場届を当該種目の第一次招集開始時刻までに TIC に提出することで欠場が認められる場合がある。
- (3) 当日欠場届には、監督および本人のサインを記入すること。ただし、大会当日に監督が不在の場合は、事前に監督代行届を提出している場合のみ、申請した代理人の署名を認める。
- (4) リレー競技の当日欠場についても上記の手続きを満たし、第一次招集開始 10 分前(リレーオーダー用紙提出締切時刻)までに当日欠場届を提出すること。
- (5) 混成競技において途中棄権する場合は、必ず混成競技係に申告の上、混成競技途中棄権届を早急に TIC に提出すること。
- (6) **TR4.4 [国際] はこの競技会には適用しない。**

#### 4. 競技者の服装について

- (1) 同一大学は、事前に学連に提出した同一のデザインのユニフォームを着用すること（提出したユニフォームと異なれば出場を認めない）。これはリレー競技に限らず、すべての種目について適用する。異なる形状のユニフォーム（トップス・ショーツ・ハーフタイツなど）を使用する場合も、事前に学連に提出し、色・デザインを統一させること。
- (2) 競技会における広告および展示物規程により、競技場内で着用できる衣類等に掲出できる製造会社名/ロゴ、スポンサー名/ロゴの大きさ、数については、HP 掲載の別紙『競技会における広告および展示物に関する規程〔国内〕』を必ず確認すること。違反した場合にはテープ等でマスキング処置を行う。
- (3) アスリートビブスは必ず本大会用のアスリートビブスを使用し、ユニフォームの胸部および背部に折り曲げたりせずに明瞭につけること。ただし、跳躍競技においては胸部または背部の一方だけでよい。
- (4) 全てのトラック競技の腰ナンバーカードは**右腰**に明瞭につけること。ただし、1500m以上からは両腰につけること。腰ナンバーカードは招集所にて配布する。
- (5) 混成競技の各日最終種目の腰ナンバーカードは、現地招集時に現地にて受け取ること。
- (6) 本大会は TR5.2 ルールを適用し、規格外のシューズ使用は全て禁止とする。

ただし、サークルを用いて行われる投擲種目（砲丸投、円盤投、ハンマー投）については、競技用靴に関する規定（Athletic Shoe Regulations）の適用対象から除外する。

#### 5. 競技用器具について

- (1) 使用器具は原則として競技場備え付けのものを使用すること。ただし、個人所有のやり・砲丸・円盤・ハンマーの使用を希望する場合は、競技開始の 90 分前までに TIC に預かり証・投擲物を提出し、検定にて許可を受ければ、2 個まで使用することができる。検査は用器具倉庫（100m ゴール付近）で行う。
- (2) 棒高跳用ポールは、各自で持ち込んだものを使用すること。
- (3) リレーおよびフィールド競技のマークは、養生テープを使用すること。競技場保護のため、それ以外のテープは認めない。

#### 6. 混成競技について

- (1) 別紙「混成競技申し合わせ事項」に従うこと。競技時間の遅れなどは、アナウンスで連絡する。

#### 7. トラック競技について

- (1) 計時について、トラック競技の計時は写真判定（0.01 秒）とする。ただし、装置に故障等のトラブルが生じた場合、手動計時（0.1 秒）とする。
- (2) 5000m・10000m・10000mW に関しては、制限時間を設ける。各レーススタート後、次に記載している時間の経過時点で残り 1 周に達しなかった競技者は、その週のフィニッシュラインで競技を中止させる。

	5000m	10000m	10000mW
男子 1 部	17 分	34 分	55 分
男子 2 部	17 分	36 分	55 分
女子	20 分	40 分	60 分

- (3) 5000m 以上の競技において気象状況により給水を行う場合がある。
- (4) 救急搬送防止および選手の安全確保のため、関西学連役員が競技者の体調を見て、医師または医務員と協議のうえレースを中止させる場合がある。その場合、必ず指示に従うこと。
- (5) 本競技会は SIS（スタートインフォメーションシステム）を使用しない為、スタート時の不適切行為及び不正スタートの判断は目視で行う

## 8. フィールド競技について

- (1) 走高跳・棒高跳のバーの上げ方は下記の通りとする。

競技	種別	ピット	試技開始	備考
走高跳	1部	A	1m90	2m10 まで 5cm 刻み、以降 3cm 刻み
	2部	A	1m85	2m05 まで 5cm 刻み、以降 3cm 刻み
	女子	A	1m55	1m70 まで 5cm 刻み、以降 3cm 刻み
	十種	A/B	1m50	一律 3cm 刻み
	七種	A/B	1m25	一律 3cm 刻み
棒高跳	1部	A	3m80	4m80 まで 20cm 刻み、以降 10cm 刻み
	2部	A	3m60	4m60 まで 20cm 刻み、以降 10cm 刻み
	女子	A	2m80	3m60 まで 20cm 刻み、以降 10cm 刻み
	十種	A/B	2m60	一律 10cm 刻み

- (2) 練習の高さは以下の通りとする。

競技	種別	練習の高さ
走高跳	1部	1m85/2m00
	2部	1m80/1m95
	女子	1m50/1m65
	十種	1m50/1m65/1m80
	七種	1m25/1m40/1m55
棒高跳	1部	3m80/4m40/5m00
	2部	3m60/4m20/4m80
	女子	2m80/3m40/3m80
	十種	2m60/3m50/4m20

- (3) 悪天候などの不測の事態が発生した場合は、総務・審判長・関西学連の協議により設定の高さを変更し競技を行う場合がある。
- (4) 競技者が1人となった場合のバーの上げ方は、本人の希望により決める。ただし、2つのピットに分かれている場合は、両ピットを通じて1人になった場合に限る。
- (5) 三段跳の踏切板の位置は、男子は13m、女子は10mとする。
- (6) 走幅跳（混成競技含む）及び三段跳の踏切判定には、粘土板を使用する。（ビデオカメラは使用しない）
- (7) 棒高跳の公式練習を行う際はゴムバーを使用する。
- (8) 投擲種目の公式練習は最低2回とする。ただし、ハンマー投は1回とする。
- (9) 現場の審判員が許可を与えた上でコーチ席にアドバイスを聞きに行くことができる。しかし、審判員の指示に従わない場合は選手・コーチに警告を与え、さらに続いた場合は審判長・総務・関西学連等で協議し対処する。（競技規則 TR6.2）

## 9. 対校得点について

- (1) 各種目の対校得点及びボーナス得点は下記の通りとする。なお、ボーナス得点は1選手につき全ラウンドを通じて1回限り、該当する最大得点のものを与えるものとする。

※CR31.14.4と同様に混成競技において、1回目に不正スタートをした競技者が、2回目のスタートで当該個別種目の下記に記載する記録を出しても、新記録およびボーナス得点としては認められない。

### [対校得点]

順位	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位
対校得点	8点	7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点

[ボーナス得点]

日本新記録	30点	日本タイ記録	25点	日本学生新記録	20点
日本学生タイ記録	15点	関西学生新記録	10点	関西学生タイ記録	7点
大会新記録	5点	大会タイ記録	2点		

- (2) 総合得点が同点の場合は、優勝種目数の多い大学を上位とする。優勝種目数が同じ場合は2位種目数の多い大学を上位とし、以降3~8位まで同様に比較する。以上の点で同じ場合は同順位とする。
- (3) **当日欠場届未提出およびコール漏れ（現地招集を含む）については、1件につき所属大学の総合得点より1点の減点を行う。また、リレー種目についても（オーダー用紙未提出含む）同様に1チームにつき所属大学の総合得点より1点の減点を行う。**

## 10. 抗議と上訴について

- (1) 競技の結果または競技実施に関する抗議は、結果が正式に発表されてから、30分以内に、その競技者あるいはチームの監督が口頭でTICを通じて審判長に申し出なくてはならない。（競技規則 TR8. 2、8. 3）
- (2) 審判長の裁定に不服な場合には、 Jury に上訴できる。審判長裁定後30分以内に、TICにて上訴申立書を記入し、委託金2万円を添えて提出すること。その結果は最終的なものとなる。（競技規則 TR8. 7. 1、8. 7. 2）

## 11. 悪天候や自然災害等発生の際の対応

- (1) 競技の実施が不可能となることが予想される場合には、関西学連会長・ヘッドコーチ・競技委員長・事務局長・幹事長と陸協等で方針を協議する。
- (2) 中止種目の得点は、どの大学の対校得点にも加算しない。
- (3) 対校戦として成立するには、対校種目数の4分の3以上（男子1部23種目のうち18種目以上、男子2部23種目のうち18種目以上、女子23種目のうち18種目以上）の決勝の実施が必要となる。対校戦として成立しない場合には、1部と2部の入れ替えも行わない。
- (4) 中止となった種目のエントリー料の返金は行わない。

## 12. その他

- (1) 記録の正式発表は大型ビジョンにて行う。
- (2) 事前欠場者の人数により、番組編成を変更する場合がある。
- (3) **競技終了後は全競技者必ずミックスゾーンを通過し、主催者が許可した報道関係者の取材を受けること。また表彰終了後もインタビューを受けることがあるので協力すること。フィールド競技に関しては、現場の競技役員の誘導に従い、まとまって移動しミックスゾーンを通過の上、退場すること。**
- (4) 記録証明書の発行を希望する場合は、正面玄関に設けるインフォメーションセンターへ発行手数料300円を添えて申し込むこと。
- (5) 競技場内へ立ち入る際、競技場保護のためヒール等の底の固い靴は一切禁止し、アップシューズもしくはスニーカーで入場すること。学生審判・補助員も同様とする。
- (6) 競技者は競技区域内にビデオ装置・レコーダー・ラジオ・CD・トランシーバーや携帯電話もしくは類似の機器を持ち込めない。（競技規則 TR6. 3. 2）ただし、フィールド種目に出場している競技者は映像を撮影した人とコミュニケーションをとりながら録画再生機器を手にしても良い。（競技規則 TR6. 4. 5）
- (7) 注意事項及び学生競技者としてのマナーを逸脱した行為などが見受けられた場合、その学生の所属する大学の以降の競技を中止させ処罰を与える。
- (8) 大会期間中に疑問な点があれば、大会本部まで申し出ること。